



施設長だより

令和8年4月号

「毎日が未知の領域」

令和8年度が始まりました。

この文章を書いている頃には、早くも4月中旬となっております（笑）

新しい年度になると、施設ではさまざまな申請や書類提出が重なり、毎年この時期は少し慌ただしくなります。期限もきちんと決められておりますので、気持ちばかりがバタバタしてしまいます。

私自身、まったく分からないままこの業界に飛び込みましたが、気がつけば今年度で3年目となりました。施設長としてはもう新人とは言えない立場ですが、今でも周囲の職員に支えていただきながら、日々学びの連続です。

さて、この「施設長だより」ですが、4月号はお休みをしておりました。職員から「もっと施設の様子や取り組みを書いてみてはどうか」という意見もあり、改めてこのお便りの役割について考えておりました。

介護施設という場所は、どうしても外から見えにくい部分があります。個人情報への配慮も必要なため、日々の様子をそのまま発信することが難しい場面も少なくありません。だからこそ、ご家族の皆さまに「安心して任せられる場所」と感じていただくためには、施設で働く人を知っていただくことが大切だと考えています。

どれほど設備が整っていても、制度や支援体制が充実していても、実際に関わる職員がどのような思いで働いているのか、どんな人たちがなのかが伝わることで、安心感につながるのではないのでしょうか。

その意味で、まずは施設長である私自身がどんな人間なのかを知っていただくきっかけとして、この「施設長だより」を始めました。ご家族の皆さまから温かい言葉をいただくこともあり、大変励みになっております。

今後は、別のお便りの中で職員紹介なども取り入れながら、ふくろうの郷で働く仲間たちのことも少しずつお伝えしていければと思っております。

この2年間、毎日一歩ずつ、何とかここまで歩んできました。これからも新しい課題に向き合いながら、焦らず、丁寧に、前へ進んでいきたいと思えます。

今回は少し施設長の独り言のようなお便りになってしまいましたが、ご容赦ください。

来月号は、もう少し施設の様子もお伝えできればと思っております（笑）

米井